

研究に関する情報公開文書

藤田保健衛生大学疫学・倫理審査委員会受付番号：14-251

研究課題：「膵石症に対する ESWL の適応と治療法に関する全国実態調査」

研究責任者：藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 消化器内科 教授 乾 和郎

慢性膵炎の経過中に形成される膵石に対する治療は手術療法が主でしたが、平成 26 年 4 月、膵石症に対する ESWL 療法が保険収載されました。そこで、厚生労働省難治性疾患克服研究事業“難治性膵疾患に関する調査研究班”の研究の一環として、我が国における膵石症に対する治療の実態を把握することになりました。対象となる患者さんは、2009 年 1 月 1 日から 2013 年 12 月 31 日に慢性膵炎・膵石症と診断された人です。調査内容は、対象期間の 5 年間に治療した患者さんの平均年齢、性別、膵石の数と大きさ、ESWL や手術などの治療内容とその成績に関する事柄で、個別の情報を報告することはありませんので、個人情報漏洩することはいっさいありません。

本研究の実施に際して、データの利用目的を含む情報を公開いたします。なお、データ利用を拒否される場合には、速やかに研究対象から除外いたします。

本研究の実施により、膵石症に対する ESWL が適切に、かつ安全に行われるための診療指針を作成することが可能になると考えております。

ご不明な点、あるいはご意見がございましたら、下記までお問い合わせください。
ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

【問い合わせ先】藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 消化器内科

教授：乾 和郎 (いぬい かずお)

TEL : 052-323-5646 FAX : 052-323-9886

研究に関する情報公開文書

藤田保健衛生大学疫学・倫理審査委員会受付番号：HM16-084

研究課題：「胆管内乳頭状腫瘍、粘液性嚢胞性腫瘍、乳頭型胆管癌に関する日韓共同研究」

研究責任者：藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 消化器内科 教授 乾 和郎

胆管内乳頭状腫瘍、胆管粘液性腫瘍、乳頭型胆管癌は、胆管という肝臓で作られた胆汁が十二指腸まで送られる細い管に発生した腫瘍です。残念ながら、その原因についてはまだわかっていませんし、どのような形で進展するのか、予後はどうなっているのか、などについてもわからないことが多いというのが現状です。また、その他の2つの腫瘍との区別もよくわかっていません。

そこで、胆管内乳頭状腫瘍、胆管粘液性腫瘍、乳頭型胆管癌で治療された患者さんに協力していただいて、これらの疾患の病態や経過、画像による鑑別の方法を検討し、病態を解明しようという研究を行うことになりました。対象となる患者さんは、2000年1月1日から2015年12月31日に管内乳頭状腫瘍、胆管粘液性腫瘍、乳頭型胆管癌のいずれかと診断された人です。調査内容は、患者さんの年齢、性別、身長、体重、飲酒歴、喫煙歴、職歴、症状の有無、血液生化学的検査、画像所見、手術術式、予後などです。確実に匿名化するため、個人情報漏洩することはいっさいありません。

本研究の実施に際して、データの利用目的を含む情報を公開いたします。なお、データ利用を拒否される場合には、速やかに研究対象から除外いたします。

本研究の実施により、これらの疾患の形態学的相違、病理組織学的相違、進展様式、予後などが明らかにされ、各疾患の診断、治療に役立つことが期待されます。

研究のより詳しい内容をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報保護やこの研究の独創性確保に支障がない範囲で、資料を閲覧していただくことが可能です。希望される場合は、担当研究者にお申し出下さい。

ご不明な点、あるいはご意見がございましたら、下記までお問い合わせください。
ご理解とご協力の程、よろしく願いいたします。

【問い合わせ先】藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 消化器内科

教授：乾 和郎（いぬい かずお）

TEL：052-323-5646 FAX：052-323-9886